

5 将来像とまちづくり方針

芝公園の特徴的な空間構成や芝公園及び周辺地域の現況と課題を踏まえ、芝公園を核としたまちづくり構想として、その将来像とまちづくり方針を以下に示す。

将来像

「江戸の杜」に集う：江戸東京文化の体感と国際的な交流の促進

芝公園の江戸草創期の資産を顕在化するとともに、歴史的資源を活用し、国際交流を促進するなど、都心に息づく江戸東京のレガシーを体感

増上寺は、江戸期においては、上野寛永寺とともに将軍家の菩提寺として、江戸に入る南北の玄関口に位置し、武蔵野崖線を背景に鎮座する要の場所となっていた。明治期の増上寺周辺は、御成道など江戸期の都市の骨格を残しながら、道路や市街地が形成されるとともに、豊かな緑を有する崖線が保全され、現在にその都市構造が継承されており、また、近年においては、鉄道や道路網の発達など空港アクセスの向上により、海外から東京を訪れる人々の玄関口となっている。

増上寺は、戦災などで霊廟等の一部が焼失したが、現存する歴史的資源や崖線の緑などが往時の姿を現在に伝えており、また、東京タワーや民間のホテルなどが整備され、国内外から多くの人々が訪れる観光名所となっている。さらに、周辺では、交通利便性や地域特性を活かし、国際的なビジネス・居住環境の整備など多くの先進的な都市開発が実施されており、今後も都市開発が進むエリアとなっている。

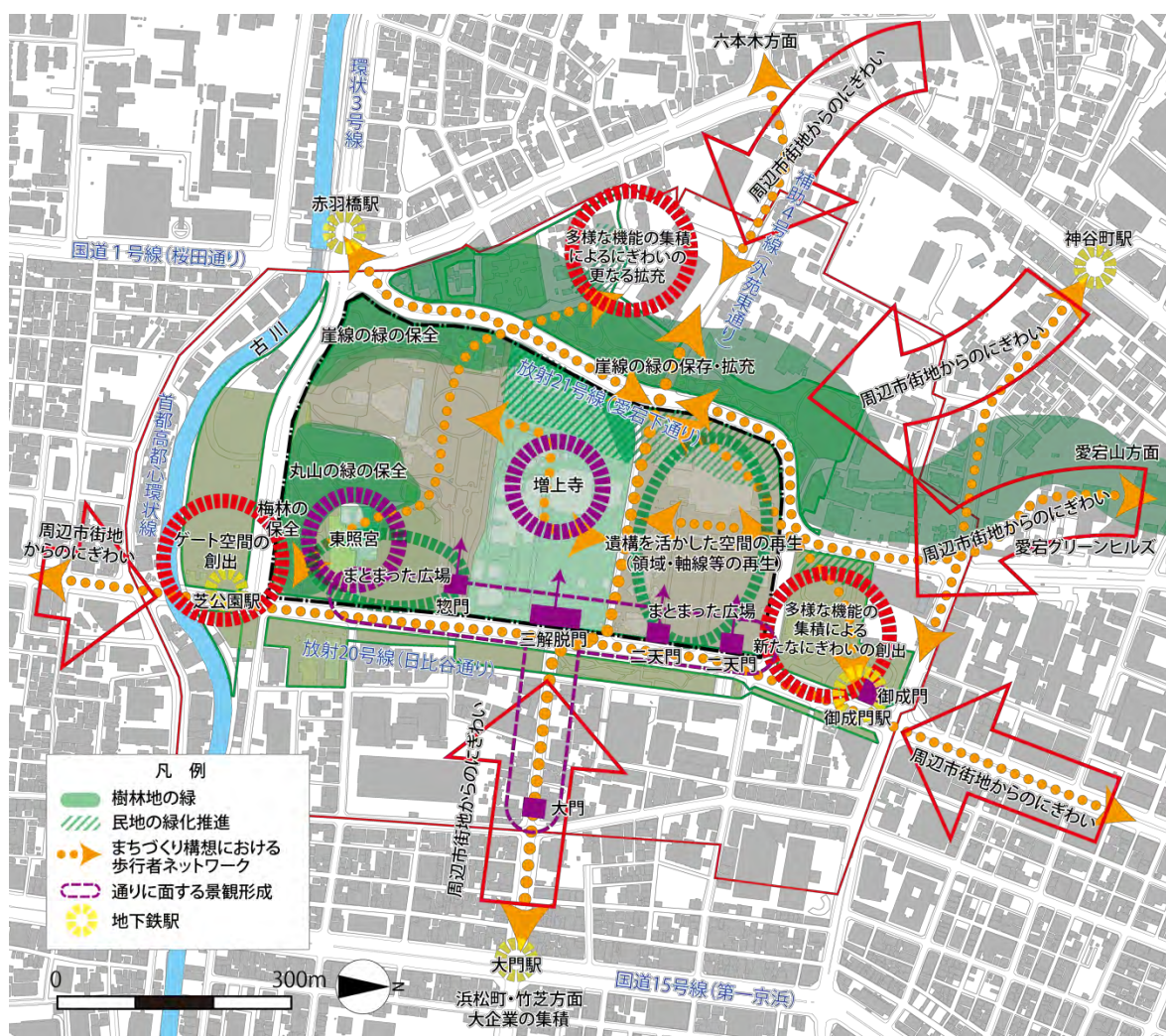
一方、戦災による霊廟等の焼失や民間のホテル利用などにより、歴史的空間が潜在化し、公園の空間や崖線の緑が分断されるなど、公園の一体性が確保されていない。

東京が魅力的な都市として更に発展するためには、歴史的資源を引き継ぐ芝の地で、民間のホテル等の機能更新の機会を捉え、潜在化する歴史的資源を顕在化し往時の空間を取り戻すなど、江戸東京のレガシーを体感する「江戸の杜」を再生する必要がある。

また、更なるにぎわいの創出や緑化の推進、地域特性を踏まえた景観形成、良好な歩行者ネットワークを形成するとともに、増上寺や民間の施設、都立・区立芝公園、周辺地域などが相互に連携することで、安全で魅力の高い空間を形成し、国内外から多くの人を呼び込む国際的な観光・交流拠点を形成する。あわせて、緑の拡充や多様な主体との協働などにより、良好な教育環境を創出する。

まちづくり方針

- 1 江戸東京の資源の再生、活用等による国際的な観光・交流拠点を形成
江戸東京の資源や特徴的な空間構成を再生するとともに、新たなにぎわいの創出や観光機能の強化、周辺地域との連携等により、国際的な観光・交流拠点を形成し、国内外に芝公園の魅力を発信する。
- 2 市街地環境の向上
江戸東京の資源や特徴的な空間構成の再生、多様な機能の集積によるにぎわいの創出等に合わせて、緑の保全・創出や良好な景観の創出、周辺地域と連携した歩行者ネットワークを形成する。また、歴史・文化資源や自然環境を生かし、多様な人々との交流の中で、教育環境の向上を図る。
- 3 地域の防災性の向上
多様な機能の集積によるにぎわいの創出等に合わせて、周辺地域と連携し地域の防災性を向上する。



まちづくり方針図

出典：国土地理院の電子地形図（基盤地図情報）
に太政官布達的区域等を追記して掲載

民間施設の機能更新等を適切に誘導することで、地区内に潜在化する江戸東京の資源や特徴的な空間構成を再生する。また、周辺市街地から人を呼び込むため、芝公園に至る結節点に新たにぎわいの創出や観光機能の強化などによるぎわいの拡充を図る。

崖線や丸山の緑の保全、緑化の推進などにより、崖線の緑の拡充などを図るとともに、日比谷通りや大門通りにおける江戸東京のまちを感じる通りの景観形成等を図る。

周辺市街地と連携したにぎわいの相乗効果等を図るため、歩行者ネットワークを形成する。また、歴史・文化資源や自然環境を生かし、多様な人々との交流の中で、教育環境の向上を図る。

国内外からの来訪者、就業者などの安全性を向上するため、民間施設の機能更新の機会等を捉えて、周辺地域とも連携し地域の防災性の向上を図る。

1)江戸東京の資源の再生、活用等による国際的な観光・交流拠点の形成

- ① 増上寺境内との連続性に配慮しつつ、往時の空間構成を再生し芝公園の中心部の歴史的な魅力を高めるとともに、増上寺等とも連携し、歴史・文化のフィールドミュージアムとして整備する。
 - かつての霊廟などの位置に、歴史・文化を発信する施設やカフェ等を整備するとともに、広場や緑地の配置、石積みや灯籠の設置、ペープメント等により、日比谷通りから増上寺、霊廟に向かう往時の領域や軸線を再生し、扇状の崖線の緑を顕在化する。
 - 空間の奥行きに配慮し、日比谷通りから愛宕下通りに向けて、序々に緑を濃くするなど厳かな雰囲気を出し創出する。
 - 背景となる扇状の崖線の緑が、連続して見えるよう建物高さに配慮し、増上寺本殿が崖線の緑を背景に、芝公園の中央に鎮座している往時の空間を再生する。
 - 日比谷通り沿いについては、二天門や練塀の再生・保存などにより、往時の空間を再生するとともに、御成門については、往時の空間構成に配慮しつつ移設するなど、江戸の風格ある景観を形成する。これに合わせて、二天門奥の広場空間の整備により、日比谷通り沿いの顔づくりや往時の玄関口を再生する。
 - 丸山のスタジイなどの自然植生や愛宕下通り沿いの大径木などの崖線の緑、日比谷通り沿いの歴史を感じさせるマツやクスノキなどを保全する。
 - 子院群の練塀等の保存、再生を図るとともに、大門や子院群から増上寺、霊廟等に至る参道を整備する。
 - 芝公園に現存する江戸時代の石材などの活用をできる限り図っていく。
 - 民間施設の機能更新に際して、埋蔵文化財の発掘状況などを踏まえ、公開等について検討する。
 - 蓮池（弁天池）の景勝地としての再生について検討する。
 - 1号地では、民間施設の将来の機能更新において、歴史的空間の再生について検討する。